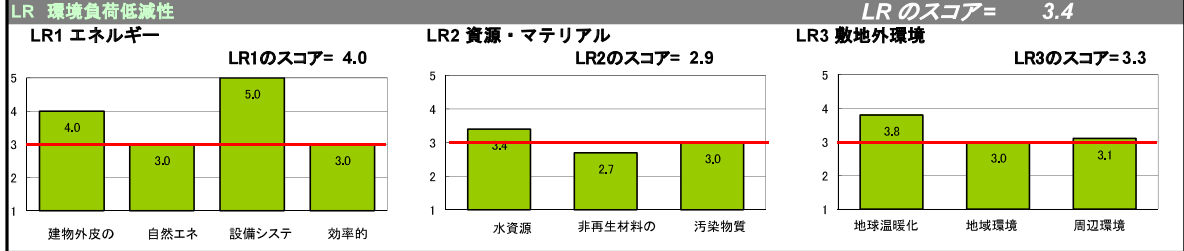
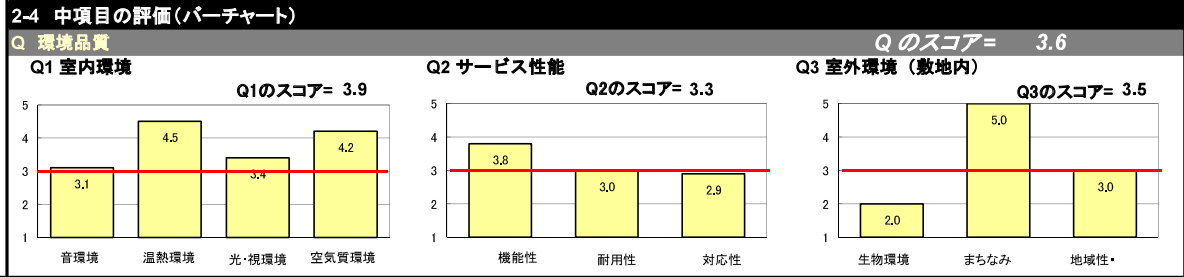
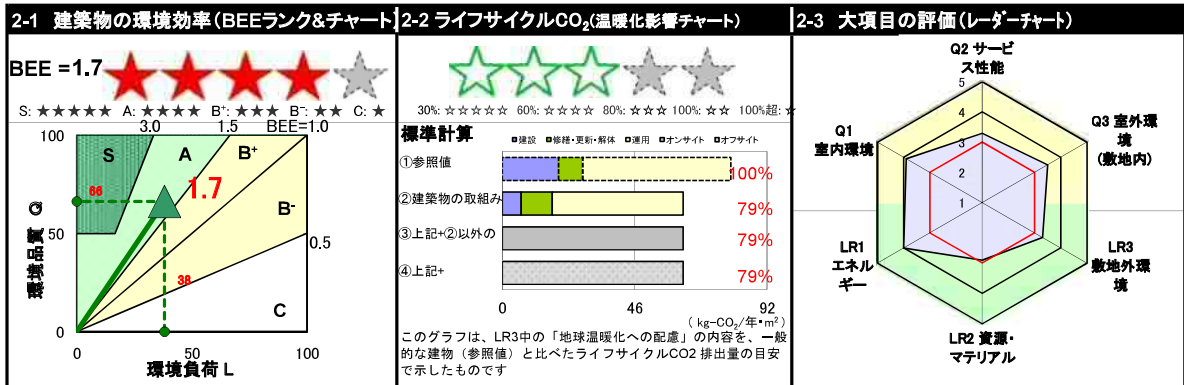


CASBEE あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)サンシャイン三河安城東町 新築	階数	地上13F
建設地	愛知県安城市三河安城東町二丁目	構造	RC造
用途地域	工業地域	平均居住人員	178 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年1月 予定	評価の実施日	2017年7月17日
敷地面積	1,493 m ²	作成者	林 信貞
建築面積	334 m ²	確認日	2017年7月18日
延床面積	3,306 m ²	確認者	岡田 一



3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">3.8</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">2.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">12.1 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">2.8</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">3.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>県産石材</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮
 ②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
 (仮称)サンシャイン三河安城東町 新築工事

■使用評価マニュアル:
 ■評価ソフト:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版
 CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部							住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目	独自基準	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部		重み係数	住居・宿泊部分		重み係数				
				評価点	評価点		評価点	評価点					
Q 建築物の環境品質												3.6	
Q1 室内環境												3.9	
1 音環境												3.1	
1.1 室内騒音レベル			遮音サッシT1を採用	2.0	4.0	0.50		3.0	0.50				
1.2 遮音				2.5	3.0	0.50		3.2	0.50				
1 開口部遮音性能				2.5	3.0	1.00		3.0	0.30				
2 界壁遮音性能				2.0	2.0	-		3.0	0.30				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			Lr-45	2.0	2.0	-		4.0	0.20				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				2.0	3.0	-		3.0	0.20				
1.3 吸音													
2 温熱環境												4.5	
2.1 室温制御				1.0	1.0	1.00		5.0	5.0	1.00			
1 室温				2.0	-	-		-	-				
2 外皮性能			外皮平均熱貫流率0.86w/mk、平均日射熱取得率1.7	2.0	1.0	1.00		5.0	1.00				
3 ソーン別制御性				2.0	-	-		-	-				
2.2 湿度制御				2.0	-	-		-	-				
2.3 空調方式				2.0	-	-		-	-				
3 光・視環境												3.4	
3.1 昼光利用				2.5	2.7	0.25		3.5	3.5	1.00			
1 昼光率			昼光率10.4%	2.5	3.0	0.30		4.0	4.0	0.50			
2 方位別開口				2.0	-	-		5.0	0.50				
3 昼光利用設備				2.0	3.0	1.00		3.0	0.30				
3.2 グレア対策				1.5	2.0	0.30		3.0	3.0	0.50			
1 昼光制御				2.0	2.0	1.00		3.0	1.00				
3.3 照度				2.0	3.0	0.15		-	-				
3.4 照明制御				2.0	3.0	0.25		-	-				
4 空気質環境												4.2	
4.1 発生源対策				2.5	4.2	0.25		4.2	4.2	1.00			
1 化学汚染物質			F☆☆☆☆使用	2.5	5.0	0.60		5.0	5.0	0.63			
4.2 換気				2.5	5.0	1.00		5.0	1.00				
1 換気量				2.5	3.0	0.40		3.0	3.0	0.38			
2 自然換気性能			居室面積の1/20以上	2.5	3.0	0.50		3.0	3.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮				2.5	3.0	0.50		3.0	3.0	0.33			
4.3 運用管理													
1 CO ₂ の監視													
2 喫煙の制御													
Q2 サービス性能												3.3	
1 機能性												3.8	
1.1 機能性・使いやすさ				2.0	3.0	0.40		4.0	4.0	1.00			
1 広さ・収納性			対象外	2.0	4.0	-		-	-				
2 高度情報通信設備対応			CAT5E	2.0	3.0	-		4.0	1.00				
3 バリアフリー計画		独自		2.0	3.0	1.00		-	-				
1.2 心理性・快適性				0.5	3.0	0.30		4.0	4.0	0.40			
1 広さ感・景観 (天井高)				2.0	-	-		3.0	0.50				
2 リフレッシュスペース				2.0	-	-		-	-				
3 内装計画			評価すべき取組みが2項目.4項目該当	2.0	3.0	1.00		5.0	0.50				
1.3 維持管理				0.5	3.0	0.30		-	-				
1 維持管理に配慮した設計				2.0	3.0	0.50		-	-				
2 維持管理用機能の確保				2.0	3.0	0.50		-	-				
2 耐用性・信頼性												3.0	
2.1 耐震・免震・制震・制振				0.5	3.0	0.31		-	-				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				2.0	3.0	0.48		-	-				
2 免震・制震・制振性能				2.0	3.0	0.20		-	-				
2.2 部品・部材の耐用年数				0.3	3.5	0.33		-	-				
1 躯体材料の耐用年数			等級3	2.0	5.0	0.23		-	-				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		②		2.0	3.0	0.23		-	-				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				2.0	2.0	0.09		-	-				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				2.0	3.0	0.08		-	-				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				2.0	4.0	0.15		-	-				
6 主要設備機器の更新必要間隔			2種類以上、C以上を使用	2.0	3.0	0.23		-	-				
2.4 信頼性				0.1	2.6	0.19		-	-				
1 空調・換気設備				2.0	3.0	0.20		-	-				
2 給排水・衛生設備				2.0	2.0	0.20		-	-				
3 電気設備		②		2.0	3.0	0.20		-	-				
4 機械・配管支持方法				2.0	3.0	0.20		-	-				
5 通信・情報設備				2.0	2.0	0.20		-	-				

3 対応性・更新性				3.0	0.29	2.9	2.9	1.00	2.9
3.1 空間のゆとり				3.0	-	2.8	2.8	0.50	
1	階高のゆとり		階高2.91m				4.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ						1.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり							3.0	0.50	
3.3 設備の更新性		②		3.0	1.00			-	
1	空調配管の更新性			3.0	0.17			-	
2	給排水管の更新性			3.0	0.17			-	
3	電気配線の更新性			3.0	0.11			-	
4	通信配線の更新性			3.0	0.11			-	
5	設備機器の更新性			3.0	0.22			-	
6	バックアップスペースの確保			3.0	0.22			-	
Q3 室外環境(敷地内)					0.30				3.5
1	生物環境の保全と創出	独自③		2.0	0.30				2.0
2	まちなみ・景観への配慮	独自④	県産石材の使用	5.0	0.40				5.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.0	0.30				3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	独自④		3.0	0.50				-
3.2	敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50				-
LR 建築物の環境負荷低減性									3.4
LR1 エネルギー					0.40				4.0
1	建物外皮の熱負荷抑制		等級4	4.0	0.33				4.0
2	自然エネルギー利用			3.0	0.17				3.0
3	設備システムの高効率化		省エネ等級4	5.0	0.33				5.0
4	効率的運用			3.0	0.17				3.0
集合住宅以外の評価									
4.1	モニタリング								
4.2	運用管理体制								
集合住宅の評価									
4.1	モニタリング			3.0	0.50				
4.2	運用管理体制			3.0	0.50				
LR2 資源・マテリアル					0.30				2.9
1 水資源保護					0.15				3.4
1.1	節水		節水型便器の採用	4.0	0.40				
1.2	雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60				
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	1.00				
2	雑排水等利用システム導入の有無								
2 非再生性資源の使用量削減				2.7	0.63				2.7
2.1	材料使用量の削減			3.0	0.07				
2.2	既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.24				
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20				
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			1.0	0.20				
2.5	持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.05				
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	独自	仕上げ材の分別可能	4.0	0.24				
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.22				3.0
3.1	有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.32				
3.2	フロン・ハロンの回避			3.0	0.68				
1	消火剤								
2	発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50				
3	冷媒			3.0	0.50				
LR3 敷地外環境					0.30				3.3
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2概算値:79%	3.8	0.33				3.8
2 地域環境への配慮				3.0	0.33				3.0
2.1	大気汚染防止			3.0	0.25				
2.2	温熱環境悪化の改善			3.0	0.50				
2.3	地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25				
1	雨水排水負荷低減	独自		3.0	0.25				
2	汚水処理負荷抑制			3.0	0.25				
3	交通負荷抑制	独自	適切な駐車台数の確保	4.0	0.25				
4	廃棄物処理負荷抑制			2.0	0.25				
3 周辺環境への配慮				3.1	0.33				3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40				
1	騒音	独自		3.0	0.50				
2	振動	独自							
3	悪臭			3.0	0.50				
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40				
1	風害の抑制			3.0	0.70				
2	砂塵の抑制								
3	日照障害の抑制			3.0	0.30				
3.3 光害の抑制				3.7	0.20				
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		広告物無し	4.0	0.70				
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30				

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

(仮称)サンシティ三河安城東町 新築工事

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.8
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.8	0.10	
② 資源の有効活用				2.8
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:12.09%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				3.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	2.0	-	県産石材
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)サンシティ三河安城

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 計画地は、大通りから少し入った工業地域にあり、工場とマンションが点在する場所にある。近隣マンションと位置関係を考慮して、マンションによる風害や日影に十分に配慮しながら、100%平面駐車とし、また、出来るだけ緑地を設け、近隣マンションの住民が気持ちよく住める環境を提供する。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 遮音サッシT1を採用して音環境に配慮し、省エネ4等級・空気環境3等級を確保し、明るく清潔な室内環境を目指した。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 躯体劣化3等級など、建物の耐用年数の向上に努め、将来の生活環境変化やニーズに伴い柔軟に対応が出来、生活にゆとりを与えられるように努めた。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 建物と道路境界との間に緑地や中低木を多く設け、エントランス廻りにはシンボルとなる高木を配し、生活環境に潤いを与えられるように努めた。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 省エネ4等級の断熱仕様、エコジョーズ給湯器の採用、共用部位分の照明を一部LED照明を採用し、環境負荷の低減に努めた。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 節水型便器を採用し水資源保護に努め、フロン・ハロンの不使用により、環境に配慮した。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 周辺環境に対し、適切な建物離隔距離をとり、緑化や中高木を配置し、環境悪化の低減を図っている。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。